

H23子子子 1670号
平成23年12月8日

日本児童青年精神医学会
理事長 齊藤 万比古様

仙 台 市 長
奥山 恵美子



児童精神科医の派遣について（お礼）

師走の候、ますますご清祥のことと存じます。

東日本大震災直後から仙台市の保健福祉行政につきまして、貴学会より多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

おかげさまで8月末より「幼児健康診査」及び「子どものこころの相談室」におきまして、こころの相談を実施して参りました。

ご存知の通り仙台市は震度6強、宮城野区及び若林区で津波被害を受け死者700名以上、家屋全壊約2万棟の被害を受け1万人以上の人々が仮設住宅での生活を余儀なくされております。子どもたちを取り巻く環境は、転居や転校、家庭の経済状態、家族関係、親しい人との別れなど様々に変化しており、保護者も含め新しい環境に適応していくことが最も優先されてきました。

子どもたちは笑顔ではありますが、震災そのもののストレスやめまぐるしい環境の変化とそれぞれの成長期の課題を抱え毎日が精一杯です。

このようななか先生方にご支援いただくことは、大変心強いことであり、相談者に限らず広く仙台市民の支えとなる貴重な機会となっております。

仙台市といたしましても、市民の方々が少しでも早く安心した暮らしを取り戻せるよう引き続き努力してまいります所存です。

今後とも暖かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。